

小学2年2組 体育科学習指導案

指導者 小林 敏 朗

グループ内で動きを見合ったり、学級全体でモデルの子を見ながら運動のポイントを見つけ話し合ったりする活動を取り入れることは、思考力・判断力を高め、技能や運動感覚を高めるのに有効であったか。

1 単元名 どんどん広げよう 2年2組運動パーク ～腕支持・逆さ・回転感覚づくりをめざして～

2 授業の構想

(1) 下記は、1学期の水遊び「スーパーマンに挑戦！」についての日記である。

7月5日(月)	「およげるようになった」	児童A
あのね、今日5時間目に体育で水泳をしたよ。スーパーマンをやったとき、小林先生が「手をもって泳いでごらん。」と言ったから、泳いでみたらできたよ。次に小林先生が「手に向かって泳いでごらん。」と言ったから、やってみたよ。やる前は、大丈夫かな、できるかなと思ったけど、やってみたら一人で泳げたよ。その後、B君やC君が小林先生がしていたのをやってくれて、うれしかったよ。今度は、手の目印がなくても、できるようになりたいよ。		

児童Aは、水泳学習の始まりの頃は水を恐がり苦手意識をもっていた。そこで、同じように苦手意識をもっている数名の子どもたちを中心にはたらきかけを行った。「スーパーマン」とはけのびのことで、最初は児童Aの両手を指導者の片手に乗せけのびをし、それからその手を離し、手を目標にけのびをさせ、できるようになった。この時期の子どもたちは「できた」という思いをもたせることが大事である。そのためには、段階的、系統的な単元構成や適切なはたらきかけなどが重要である。この「できた」という感覚こそが次への学習意欲をわき立たせる源になる。

また、上記の日記からもわかるように、少しずつではあるが、グループ内での学び合い、かかわり合いができるようになってきた。低学年の時期は、どうしても「教師と一人ひとりの子ども」「一人ひとりの子どもと運動」という結びつきが強い傾向が見られる。しかし、指導者がねらいやかかわり合い方をはっきりさせた上で、意図的にグループやペアでの活動を取り入れることにより、子どもたち同士の結びつきが強くなっていく。それにより、グループでの教え合いや学び合いが活発になる。この学び合い、かかわり合いながら追求していく姿は、中・高学年の体育学習に必要なことと考える。

また、1学期に実施した運動カルテの「壁逆立ち」と「ブリッジ」の結果は下記のようにであった。

記録(秒)	0～10	11～20	21～30	31～40	41～50	51～60
壁逆立ち	25人	0人	1人	2人	0人	5人
ブリッジ	7人	4人	7人	1人	1人	13人

この結果から、本学級の子どもたちは壁逆立ちを苦手としていることがわかる。特に気になることが壁逆立ちの記録が0秒、つまり壁に向かって逆立ちの形ができない児童が23名いることである。ブリッジはある程度できるのに対して、壁逆立ちができないのは体を腕で支える「腕支持感覚」と頭が下方になる「逆さ感覚」が育っていないためと考える。こういう実態も踏まえ、授業を構想する。

(2) 今回の学習指導要領改訂による変更点の一つに、これまで4年生からであった器械運動が3年生から始まることが挙げられる。これは、3年生の段階から前転や後転などの基本的な技の習得が重視されたからである。つまり、2年生段階(低学年段階)における「器械・器具を使った運動遊び」では、基本的な技の習得につながる運動感覚づくりが必要となってくる。

器械運動につながる運動感覚として、逆さ感覚、回転感覚、腕支持感覚、体を起こす感覚、踏み切り感覚、バランス感覚、体を投げ出す感覚などが挙げられる。どの感覚も大切ではあるが、前述の本学級の実態を踏まえ、本単元では特に体を腕で支える「腕支持感覚」と頭が逆さになる「逆さ感覚」、そして今後の器械運動の技につながる「回転感覚」を育てることを大きなねらいとする。この時期の子どもたちは体が

比較的小さいので体をコントロールしやすく、体が柔らかい傾向がある。よって、この時期にこれらの感覚を養うことは、3年生以降の技の習得において重要と考える。

また、本単元の「器械・器具を使つての運動遊び」や今後の「器械運動」は、グループ活動に適している。それは、技の観察がしやすく、見るポイントがはっきりしているため、できる子ができない子にアドバースしたり、よりよく演技するためのコツを探したり試したりしながら、お互いにかかわり合い、学び合いをすることが可能だからである。同じ課題を追求し友だちと学び合い、運動のポイントを「どうすればできるのかな」と思考し、「～をするとできそうだ」と判断し、それが次の言葉や体での表現へとつながっていく。このように思考・判断し表現しながら高め合う学習は、3年生以降の学習にも生かされていく。

(3) 本単元では、前述のように「逆さ感覚」「腕支持感覚」「回転感覚」を養うことを大きなねらいとし、「体ほぐしの運動」と「器械・器具を使った運動遊び」との帯単元として取り組む。「体ほぐしの運動」では友だちとのかかわり合いを大切にしながら、ねらいに迫る運動を取り上げる。「器械・器具を使った運動遊び」では主にいろいろな前回りや後ろ回り、川わたり側転などに取り組む。これらの運動は「逆さ感覚」や「腕支持感覚」につながり、前や後ろ、横といったいろいろな方向へ回る「回転感覚」も養えると考えられる。また、本単元は運動のポイントを見つけることを通して、子どもたちの運動を見る目を育てていく。グループの中でお互いに見合ったり声をかけ合ったり、学級全体でもポイントについて話し合ったりする。こういう活動を通して運動を見る目も育ち、思考力を育てることにつながっていく。

第1次では、まずは2年2組運動パークで運動の幅（できること）を広げることや場の準備などについて共通理解を図る。そして「体ほぐしの運動」として友だちとのかかわり合いを大切にしながら「くぐりぬけ競争」や「ブリッジくぐりぬけ競争」などに取り組む。その後、実際に「2年2組運動パーク」でどんな運動ができるかを一人ひとりで考え工夫しながら取り組み、個人追求していく。子どもたちは、これまでの運動経験を振り返りどころとして考え、活動していくであろう。その考えたりやってみたりした運動を学級全体に広め共有していく中で、類似の運動や未経験の運動に挑戦し、運動の幅を広げることになる。なかなか取り組めない子には、指導者から運動を提案することにより広がりをもたせていく。

第2次では、毎時間まずは「2年2組運動パーク」で運動をする。ここでは、友だちとのかかわり合いながら、第1次で広げた運動の幅をさらに広げ、運動を楽しむという視点を大切にしたい。具体的には「まねっこ列車」という形で、グループの先頭の子が考える運動を真似しながら、これまで自分がやったことのない動きや類似の運動などに触れ、運動の幅を広げていく。そして、第1、2次での子どもたちの動きをよく観察し、「器械・器具を使った運動遊び」へとつなげていく。「器械・器具を使った運動遊び」で取り組む主な運動は、前回りからダンボールを越える前回り（とび前転に近い動き）、高いところへの前転（台上前転に近い動き）、川わたり側転から平均台、跳び箱を使った横跳び越しである。これらの運動に取り組む、子どもたちは運動の幅を更に広げていくことになる。これらの運動はマット運動・跳び箱運動という枠を取り払い、類似する動きを行うことによって本単元が目指す運動感覚を養っていくことになる。これらの運動に取り組むながら、モデルの子の動きを見て「〇〇さんは、どんなところに気をつけてやっているのかな？」「◇◇さんはどうして上手に（高く）回れるのかな？」などと投げかけ、学級全体で思考していく場面をつくる。子どもたちはお互いの考えを発表し合い、指導者は運動のポイントについてまとめ広げていく。その話し合いをもとに、「～に気をつけてやってみよう」と各自で判断し、グループの中で見合いながら再度運動に取り組む。これらの活動の中で、グループ内での声のかけ合い、かかわり合い、学び合いをつくっていく。毎時間、最後に体育ノートにふりかえりを書かせ子どもたちの思いを把握し、次時の活動へとつなげていく。

第3次は、本単元のまとめとして取り組む。「2年2組運動パークマップをつくろう」というめあてのもと、各自ができるようになった動きをしながらマップにその動きを書き込んでいく。途中、子どもたちが書き込んだことを発表することにより、更なる活動を促したい。子どもたちには伸びが実感できるよう、はたらきかけをしていく。

本時は、2年2組運動パークで友だちとのかかわり合って活動し、その後、前時の川わたり側転の動きを平均台や跳び箱で行い、横跳びこしにつなげていく時間である。前時の平らなところと違い、本時は高いところへの動きであるので、しっかりと踏みきって体を上げること、腕できちんと体を支えること、体を支えてから回ることなどがポイントになる。こういうポイントをモデルの動きを通して見つけ思考し、思考したことが言葉や動きの中に見られることを期待する。

3 展開計画（全8時間 本時7/8）

次	主な学習	時	具体的な学習・内容（◇印は、学級全体の学び合いの場面）
1	2年2組運動パークのやり方を知る くぐりぬけ競争をしよう 2年2組運動パークで、いろいろな運動を見つけよう	1 2	<ul style="list-style-type: none"> ・運動パークの作り方を知る。 ・くぐりぬけ競争をする。 ・これまでの運動経験を生かして、運動パークの中でできる（できそうな）運動を見つけ、やってみる。 ◇運動パークでできる運動を言葉や動きで、紹介し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・友だちから聞いた運動を自分たちでやってみる。
2	2年2組運動パークで友だちと楽しもう いろいろな回り方に挑戦しよう	3 4 5 6 ⑦	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習をもとに、グループの友だちとかかわり合いながら運動に取り組む。 ・運動のポイントに気をつけながら運動に取り組む。 <第3時>前回り～ダンボールを越えて前回り <第4時>高いところへの前回り～台上前転 <第5時>肩回り～後ろ回り <第6時>川わたり側転 <第7時>川わたり側転～横跳び越し（平均台・跳び箱） ◇モデルの子の運動を見て「○○さんは、どうして～ができるのかな？」などと運動のポイントについて話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・話し合ったことをもとに、再度挑戦してみる。
3	「こんなことができるようになったよ」運動パークマップをつくろう	8	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習を生かして、いろいろな運動に取り組む。 ・一人ひとりが本単元を通してできるようになったことを「運動パークマップ」に書き込む。 ◇自分ができるようになったことを紹介し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・紹介しあったことをもとに、再度マップ作りをする。

4 評価計画

次	時	運動や健康・安全への関心・意欲・態度	運動や健康・安全についての思考・判断	運動の技能	健康・安全についての知識・理解
1	1 2	<ul style="list-style-type: none"> ・グループで協力してくぐりぬけ競争を楽しんでいる。 ・運動パークで工夫した動きを考え運動を楽しんでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの経験をもとに、できそうな運動に取り組んだり新しく考えたりしながら運動の仕方を工夫している。 		
2	3 4 5 6 ⑦	<ul style="list-style-type: none"> ・運動パークで、グループの友だちとかかわり合いながら、運動を楽しんでいる。 ・いろいろな回り方に意欲的に取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちとかかわり合いながら、これまでの学習を生かして運動の仕方を工夫している。 ・友だちの動きを見ながら運動のポイントを見つけ、それを意識しながら運動している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の体を腕で支持しいろいろな回り方をしている。 	
3	8	<ul style="list-style-type: none"> ・運動パークでできるようになった運動についてやりながらマップに書こうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習をふりかえりながら、できる技やできそうな技を選んで取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな回り方の中で、自分の体を腕で支持し、回転している。 	

5 本時の学習

(1) ねらい

これまでの学習を生かしグループの友だちとかかわり合いながら、運動パークで運動を楽しむ。

(体ほぐしの運動)

前時の川わたり側転の学習を生かし、平均台や跳び箱を使って腰を高く上げて横跳びこしができる。

(器械・器具を使った運動遊び)

(2) 展 開

学習場面と子どもの取り組み	教師の支援と願い・評価 (◎は学び合いのためのはたらきかけ)
<p>1. 本時の学習の流れをつかむ。</p>	<p>・本時の流れと前時までの様子を話して、意欲を高める。</p>
<p>グループの友だちと2年2組運動パークを楽しもう。</p>	
<p>2. これまでの経験を生かし、2年2組運動パークでグループごとに運動を楽しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに先頭の子が考える運動をやってみる。 ・グループの先頭は、一定時間が来ると交代する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・4～5人グループを構成し、先頭はどんどん交代しだれもが運動を考える立場を経験する。 ・各グループがスムーズに移動したり、いろいろな場で運動したりするよう声かけをする。 ・必要に応じて、以前行った運動を紹介する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">評価の観点 (関心・意欲・態度) 運動パークで、グループの友だちとかかわり合いながら、運動を楽しんでいる。 【評価方法 観察】</p> </div>
<p>川わたり側転の学習を生かして、平均台や跳び箱で横跳びこしに挑戦しよう。</p>	
<p>3. 前時の川わたり側転の学習を思い出してから、平均台で横跳びこしをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ内でお互いの跳び方を見合う。 ・リズムに気をつけながら跳んでみる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の川わたりを振り返り、運動のポイントを整理する。 ・平均台を越えている子に賞賛の声かけをし、越えられない子には、まずは平均台の上に乗ることを提案する。 ・腰が高く上がっているか、見る視点を子どもたちに与え、どうやったらできそうかを考えるよう声かけをする。 ・ある程度跳べるようになればリズムよく跳ぶよう声かけをする。リズムのとりにくい子には手拍子でリズムをとる。
<p>4. 跳び箱で横跳びこしをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ内でお互いの跳び方を見合う。 ・お互いの跳び方を言葉や体を使って伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・跳び箱の高さを必要に応じて調整する。 ・跳び箱を越えている子に賞賛の声かけをする。 ・どうやったら高く越えられそうか、考えながら友だちの動きを見るよう声かけをする。 ・グループ内で見合う適切な場所を指示する。 ・次の話し合い活動につながるように、体が跳び箱の上を通過している子や腰を高くして回っている子を見つける。
<p>5. 腰を高くして跳んでいるモデルを見て、運動のポイントについて話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モデルの子の動きをよく見て、いいところを見つける。 ・話し合ったことを生かし意識するポイントを決め、再度挑戦する。 	<p>◎腰を高くして跳んでいるモデルを全員で見て、運動のポイントを話し合う。その際に、子どもたちから出た意見をまとめ、広めていく。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">評価の観点 (思考・判断) モデルの友だちの動きを見ながら運動のポイントを見つけている。 【評価方法 観察】</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・最終的に、しっかりと踏みきり体を上げた後、腕で体を支えることを意識して再度やってみよう声かけをする。
<p>6. 本時のふりかえりをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最初はなかなか跳びこえられなかったけど、跳べるようになった。 ・しっかりと踏み切って、腕をついたら跳び箱が越えられた。 ・〇〇さんの真似をして～に気をつけたら、跳べるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・最初に跳んだときと比べ、再度挑戦したところを中心に本時をふりかえるように声かけをする。 ・次時は、単元のまとめとして、多くの種類の運動をすることを伝える。